



海と暮らす

展示替えのお知らせ



ご好評をいただいている浜本写真展「海と暮らす」―浜本栄が視た周防大島町橋地区の情景―。この度展示替えを行いました。

今回は旧橋町の中でも浜本氏の生まれ故郷である日良居地区を中心に展示しました。近所の子供たちが海辺で遊ぶ姿や、自宅での結婚式などの風景に懐かしさを感じていただけました。



【写真＝岩屋権現での餅焼き 昭和41年(1966)】

今回は安下庄地区を撮影した作品をご紹介します。一年間無病息災で過ごせるといわれる岩屋権現での餅焼きの様子、大漁旗がはためく正月の風景やイワシ船など、故郷の暮らしのシーンをぜひご覧ください。(古賀)

期間…8月30日(日)まで
開館時間…9時～16時/入場無料
場所…八幡生涯学習のむら 学びの間
月曜休館(祝日の場合はその翌日)
問い合わせ…0820・72・2601



建設当時の図面

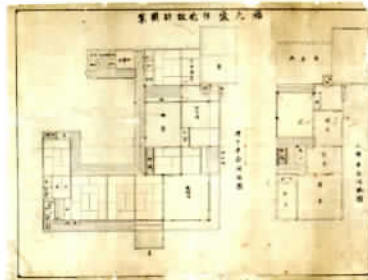
デジタル化

日本ハワイ移民資料館は、サンフランシスコに渡り貿易事業で成功を収めた福元長右衛門氏が建



てた邸宅を改修して使用しています。昭和3年(1928)に建築した和洋折衷様式の建物自体が文化財です。いま建築当時の図面が2点残されています。いずれも長辺が約80センチで、一つは平面図、もう一点は青焼きの立面図です。

これは、数年前にスタッフの山本久代さんが、土蔵二階の資料群の中から見つけました。はじめは気軽に広げてみたところ、どうも本館の古い図面とわかり、早速来館者に紹介しました。



令和元年度には国登録文化財へ申請するための調査が行なわれ、徳山工業高等専門学校の中川明子先生が調査作成を担当されました。先生は、以前にも資料館の建物調査を行っていたらしいようですが、この図面をご覧になるのははじめてでした。重要な資料なので、デジタル化してはどうですかと、周南市にある山五青写真工業株式会社さんを紹介いただきました。

早速、同社の田村義秋さんに相談したところ、その翌週には来館いただきました。これまでも古い資料のデジタル化の経験があり、丁寧に梱包して運んでいただきました。そして青焼きは紫外線に弱いので暗室に保管してくださるとのアドバイスもあり、現在はそのデータから作った複製品を展示しています。

資料の発見、保存、そして活用は、いろいろな

人のちょっとした気づきや、それを後世に伝えようという思いの積み重ねで動いています。この旧福元家住宅図面は、デジタルデータの活用でその価値を広め、原資料は大切に保管して次の世代に伝えていきたいと思っています。(木元)

有酸素マシン

【ランニングマシン ラボード LXE1200】

ウォーキングやジョギングができます。有酸素運動

で持久力や心肺機能の強化が期待できます。季節や天候に左右されず自分のペースで走ることができ、全身運動で脂肪燃焼には最適なマシンです。専門スタッフが機械の使い方、トレーニング方法についてもアドバイスいたします(要予約)。ぜひランニングマシンで、痩せやすいカラダ、健康的なカラダを手に入れてください！(中村)

使い方

ランニングマシンで走り始める前に、ウォームアップを行うようにしましょう。ウォームアップを行うことで、筋肉の温度が上がって神経系の伝達が良いようになるために運動効率が上がります。

ランニングマシンはとても効果的な機具ですが、間違ったフォームだと怪我をするリスクもあります。走っている時は姿勢を意識しづらくなります。常に胸を張って走ると良いでしょう。

走り方のポイント

- ① 手すりをつかまない
- ② 腕を大きく振る
- ③ 良い姿勢を保つ

お問い合わせ…0820・78・2512



周防大島町総合体育館

『宮本常一農漁村採訪録』

下北半島調査ノート(1) 刊行



宮本常一記念館

当館では宮本常一の調査ノートの刊行事業を続け、これまでに周南島嶼部や長崎県対馬などを発行しています。今回刊行した22巻は青森県下北半島の東部、現在の東通村にあたる地域での聞き取りが中心です。

今回も『宮本常一著作集』の編者である田村善次郎先生に協力をいただきました。特に本巻は、昭和38年(1963)8月に田村先生が宮本に同行し、その聞き取りを書きとめたノートをもとにしています。

オシラサマ信仰や北海道へのニシン漁出稼ぎ、ワカメや砂鉄といった地域産業、この地の風土が細かに記録されています。そして下北の厳しい自然の中で培った知恵や取り決めが記されており、読み応えのある内容になっています。一冊1000円です。



宮本は、この調査から6年後に『私の日本地図③下北半島』を上梓します。今回のノートは、その著作を深く読み、さらに下北の生活を知る上で重要な資料です。

【問い合わせ】0820・78・2514

刊行「ハワイ日本人移民史」



「足で拾った移民の真実がここに」

昨年当館20周年記念に講演いただいた、ハワイ移民資料館仁保島村館長の川崎壽先生(広島市)の研究の集大成というべき書籍「ハワイ日本人移民史」がこのたび発行されました。



ハワイ日本人移民史

川崎先生が数十年かけて、調査・取材・収集された貴重なハワイ移民の全様が詰まっている素晴らしい内容となっています。ページをめくると溢れんばかりの資料が目飛び込み、読み進むうちに引き込まれていきます。著者のハワイ移民への思いが心を揺さぶります。

明治元年(1868)の「元年者」といわれる人びとが渡航した時代から、昭和27年(1952)の日本人帰化まで、史実に基づき10の章に区分され分かり易く書かれています。そして関連する史料や写真も満載の全247ページの大書です。本館の資料も数多く活用され嬉しい限りです。周防大島をはじめとしたハワイ移民の歴史について、この本が後世に語り継いでいく架け橋となってくれるものと思います。(木元)

●購入の申し込み・問い合わせ

日本ハワイ移民資料館

TEL 0820・74・4082

Fax 0820・72・4133



なでん踊り



八幡生涯学習のむら

なむでん踊りは久賀に伝わる虫送り

の行事です。虫送りは、田植えの後、稲を害虫や病気から守り五穀豊穡を祈るもので、久賀では約300年前に神屋寺(現久屋寺)の住職が節回しを考案したことで芸能的に深化しました。久賀のなむでん踊りは、昭和49年(1974)に県の指定文化財に指定され、現在では保存会が中心となつて伝承されています。今年は新しいメンバーも加えてご披露いたします。

日時…6月27日(土)

時間…14時から久屋寺で入魂式後各会場へ場所…久屋寺↓八幡生涯学習のむら↓久賀農協前↓追原公園

※雨天時はルート変更になります。町広報などでご確認ください。

問い合わせ…0820・72・2601

暮らしのモノ語り

サカナオケ

六万点の民具から…売り物の魚を入れる桶である。長径約51センチ、短径36センチの楕円形の木桶でしっかりと蓋がついている。

魚には独特のにおいがあるので、魚を入れる桶は洗い桶などほかの用途に使うものとは別にしてきた。現代のような洗剤もなく木材に臭いがしみつくとなかなかとれな

かったため、ほかの物に臭いがうつるのをふせぐためである。桶の蓋には足がついていて、ひっくり返すとまな板としても使用できるようにになっていた。この上で魚を洗いシゴした。シゴとは調理のことで「仕事」の意であろうか。

宮本常一によれば、蒲野村西浜の人々は大島瀬戸で瀬戸貝や海藻をとっていた。とったものは妻女たちがハンボウと呼ばれる桶に入れて頭にのせ、久賀小松などに売りに出していた。また、ナマスバチあるいはクツガタというやはり楕円形の桶があり、魚を切るときにはこの桶に水を入れ、桶の蓋をさかさにしてその上で切った。蓋を「さかさにする」とは「裏返して」まな板にしたという事であろう。これはかなり大きな桶で、夏には子どもたちがこれに乗り、手で水をかいて沖へ出たという。



ここに紹介するサカナオケも宮本が記録した桶たちと同じく魚と食に属する道具で、持ち運びのできるショーカー兼調理場といったところか。魚が売れると客の求めに応じてその場でさばいていたのだろうか。蓋には包丁の傷跡がたくさん残っている。(古賀)

※本誌掲載の各種情報は新型コロナウイルス感染症の影響で変更になる場合があります。必ず主催者へお問い合わせください。